

全国発売

岡山の牛が絵本になりました!

人と牛と一緒に田畑を耕し、家に帰れば同じ屋根の下で生活し、
家族のように牛と暮らした時代のお話です。

つるくんの物語です!

モチーフになったのは
つるうし
竹の谷蔓牛



作者: 本田哲也
発売所: 河出書房新社

江戸時代、難波(浪花)元助・千代平親子は、阿賀郡新郷村大字釜字竹の谷(現岡山県新見市神郷釜村)で、牛の改良に力を注ぎ、体格の良い牛を産出しました。その牛たちは「竹の谷蔓牛」と呼ばれました。蔓牛というのは優れた系統の牛のことで、竹の谷蔓牛は日本で最も古い蔓牛とされています。

岡山県新見市

つる牛とは…



中国山地に生きた人びとにとって、牛たちは日々の生活に欠かせない動物でした。お米をつくる田んぼを耕したり、重い荷物を運んだり糞もたいせつな肥料となって実り豊かな土にしてくれます。命をいただき、美味しいお肉にもなりました。中国山地は「たたら」と呼ばれる鉄づくりも盛んな地です。できあがった鉄を運ぶのも牛たちのお仕事。人びとは、牛を宝として、近くの山々に放牧しながら、たいせつに育てました。愛情たっぷり育てた牛たちは、からだが強くて性格はやさしく、なによりも働きものでした。そんな両親から脈々と流れるすぐれた血を引き継ぐ牛たちを、「つる牛」と呼びます。

島根大学 准教授
板垣 貴志

ほんだ てつや
本田 哲也 (絵本作家)

1951年、北海道生まれ。

自然や動物たちの世界に魅せられて絵を描き続ける。著書に「なきうさぎの山」「海をわたるしかたち」「エトピリカ海」「こぐまの森」(偕成社)「ビウカ湿原のゆきうさぎ」(河出書房新社)「トカブチのめぐみ」(山と溪谷社)「どさんこうまのはる」(ベネッセ)「どさんこうまのふゆ」(ベネッセ/芸文社)など。どさんこうまのシリーズはアメリカ、カナダ、韓国などで翻訳出版されている。

私生活では、野菜の自然栽培を中心にエネルギーを含め自給自足生活を続けている。北海道上川郡清水町在住。



「竹の谷蔓牛」の取材の様子



新見市のホテルをアトリエに

